

いずみ

令和7年度 9月号
図書委員会 2年3組
人見光聡 ・ 木村咲葵



夏休みが終わり、二学期が始まりました。まだまだ暑い日々が続きますが、体調はいかがでしょう。家でゆっくり過ごす時に、隣に本があると、心が安らぎますよ(^_^)。今月号は、ブックショッピングで購入した本の紹介と、天童荒太さんの本の紹介です。



【7月のブックショッピングの購入本の紹介】

『僕は猛禽類のお医者さん』

北海道釧路市にある日本で唯一の野生の猛禽類の保護・治療の施設である「猛禽類医学研究所」。自動車や列車との衝突事故、風力発電の風車への巻き込まれ事故、そして狩猟につかわれる鉛弾での鉛中毒などにより、多くの野生の猛禽類に被害が出ています。動物たちの命を守るために獣医である著者が猛禽類医学研究所を立ち上げ、仲間の獣医やスタッフ、関係者との出会いや今までに前例のない治療など鳥たちとのドタバタな日常を送りながら、すべての人に伝えたい「本当の共生」とは？



『謎の香りはパン屋から』

大学一年生の市倉小春は漫画家を目指しつつ、大阪府豊中市にあるパン屋〈ノスティモ〉でアルバイトをしていた。ある時、同じパン屋で働いている親友の由貴子に、一緒に行くはずだったライブビューイングをドタキャンされてしまう。誘ってきたのは彼女のほうなのにどうして？疑問に思った小春は、彼女の行動を振り返り、意外な真相に辿りつく…。パン屋を舞台とした〈日常の謎〉連作ミステリー！この作品は、パン好きはもちろん、ミステリー好き、日常の謎を解き明かすのが好きな人にもおすすめの作品です。是非読んでみてください。

『ネバーランドの向こう側』

文化センターで働く30歳の実日子。実家で何不自由ない生活を送っていたが、両親が交通事故で亡くなり、母方の叔母と同居することに。箱入り娘で、家事ができず、世間知らずな実日子と合理主義の叔母は全く波長が合わず、実日子は人生初めての一人暮らしを決意するが…。

新居であるメゾン・ド・ミドリで出会った大学生サイトーくんや声優の新田さん、お見合い相手の椎名さんとの交流の中で、実日子は少しずつ強くなっていく。大人になり切れない大人の葛藤と進歩を描く、ハートフルストーリー。

純粋で世間知らずな主人公に共感出来ると思います。



【天童荒太さん「昭和(れとろ)探偵物語」2025年6月刊行】



北高の大先輩である天童さんから「松山北高の皆様へ」と書かれたサイン本が届きました。天童さんが探偵小説に挑戦されています。時はビートルズが日本にやって来た1966年(昭和41年)、令和生まれの皆さんにも昭和がどんな時代だったのかが分かる注釈付き。図書館に置いてありますので、ぜひ借りに来てください。

この夏の一冊にどうですか。

～天童荒太さんのプロフィール～

愛媛県松山市出身で、本名は栗田教行さんです。道後温泉の近くで生まれ育ちました。愛媛県立松山北高等学校、明治大学文学部演劇学科を卒業しています。

代表作に『包帯クラブ』、『永遠の仔』、『悼む人』、『家族狩り』などがあります。作品は映画化やドラマ化されることも多く、メディアとのかかわりが多い方でもあります。特に『悼む人』が第140回直木賞を受賞したことで、更に著名な作家となっていきました。

現代日本を代表する作家が、松山北高校を卒業していることを知ると、天童さんの作品を読んでみたくなりますね！

図書館に、天童さんの著作を置いてあります。ぜひお手に取ってご覧ください！



《図書委員おススメの本 part4》

書名	作者名	お薦めの理由	図書委員
本を守ろうとする猫の話	夏川草介	主人公が喋る猫と出会い、本を守ろうとする話です。多数の有名な本が話の中に出てくるので本が好きな人には、本との再会の場に、あまり読まない人には出会いの場になります。本が薄くなっていく現状、本を読むことの大切さ、読んだ後のことなど、本について考えさせてくれます。この本は読みやすくも考えさせてくれる素晴らしい作品なので、ぜひ読んでみてください。	201
天久鷹央の推理／事件カルテシリーズ	知念実希人	今一番注目されている作家“知念実希人”さんが描く大人気医療ミステリー、通称「天久鷹央」シリーズです。この本は、超人的な頭脳で患者を診断する統括診断部の部長、天久鷹央とその部下で本作の主人公の小鳥遊優が患者の身体の謎から警察もお手上げするような難事件まで解決していく話です。時系列順に読むのもよし、好きな話から読むのもおススメです。また、今年の1月からアニメが放送されていたのと、4月からは橋本環奈さんが主演でドラマ化もされています。小説、ドラマ、アニメどれから見てもいいので、ぜひ見てみてください。	201
人間失格	太宰治	一人の人間が「完全に人間ではなくなる」ところまで堕ちていく姿を淡々と描いた物語です。この話は“道化”にフォーカスが充てられており、ありのままの自分を見せる不安といつか気付かれまいかという恐怖の中で葛藤し、酒や薬に溺れていく主人公が魅力的です。	202
ぼくとニケ	片川優子	この本は一人の少女が公園で子猫を拾うところから始まります。しかし、彼女の家では動物を飼うことができないので、幼馴染の「ぼく」の家に引き取ってもらい、毎日通いながらお世話をしていくという物語です。この本ではペットを飼う大変さや命の大切さなどを感じることができます。(ペットを飼っている人はぜひ読んでみてください。)	202
残像に口紅を	筒井康隆	だんだんと世界から五十音が消えていき、言葉が荒くなっていく中で主人公が平凡な生活を送っていく物語です。言葉の大切さについて知ることができます。ぜひ読んでみてください。	203
また同じ夢をみていた	住野よる	小学生ならではの想像力で普段とは違う物の見方を知ることができ、新しい感覚になることができます。また、思いやり、人との関わり方、支え合いなど、生きていくうえで大切なことを改めて考えることができる一冊です。ぜひ読んでみてください。	203